

■ N'2020 Planの実現に向けた
「アクションプラン」年次報告書
(平成27年度)

はじめに

学校法人二松學舎は、平成24年10月10日、創立135周年を機に、本学の2020年(平成32年)のあるべき姿を描いた長期ビジョン「N'2020 Plan」を策定し、その中で、建学の精神の現代的解釈と、建学の精神に沿った育成すべき人材像の明確化を図り、当該人材像を育成するための教育・研究のあり方などの施策を抽出し、課題として織り込みました。

平成25年度には、この長期ビジョン「N'2020 Plan」を実現するための5カ年の具体的な行動計画を策定し、「アクションプラン」と名付け、本年3月で計画の3年目が終了しました。

「平成27年度全学アクションプラン」には、長期ビジョンに掲載した課題はもちろん、過去に本学が取り組んだ経営計画である「マスタープラン」で残された課題、更には理事や役職教職員の意見が盛り込まれ、学校法人全体の課題が、「6つの柱、70の課題、230のアクション」に分類されています。

また、個々の課題について、担当理事・関係会議・推進部署が連携して解決に向けて取り組むための行動計画とスケジュールを定めた「全学アクションプラン」と、事務組織の各部署が取り組むべき具体的な業務目標にブレイクダウンした「課別アクションプラン」を重層的に策定しており、それぞれの課題についてPDCAを確立し、責任体制を明確化させ、確実な目標達成を目指しています。

この「年次報告書」は、「平成27年度版アクションプラン」の概要とその進捗状況について、本学に関わる学生・生徒、父母、OB、役員、評議員、教職員、企業などステークホルダーの皆様方に対してご報告申し上げ、引き続きご支援とご指導を賜ることを目的として発行致しました。

今後とも本学の長期ビジョン実現に向けて、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、「アクションプラン年次報告書」の発行に当たってのご挨拶とさせていただきます。

平成28年5月吉日

学校法人二松學舎

理事長 水戸英則





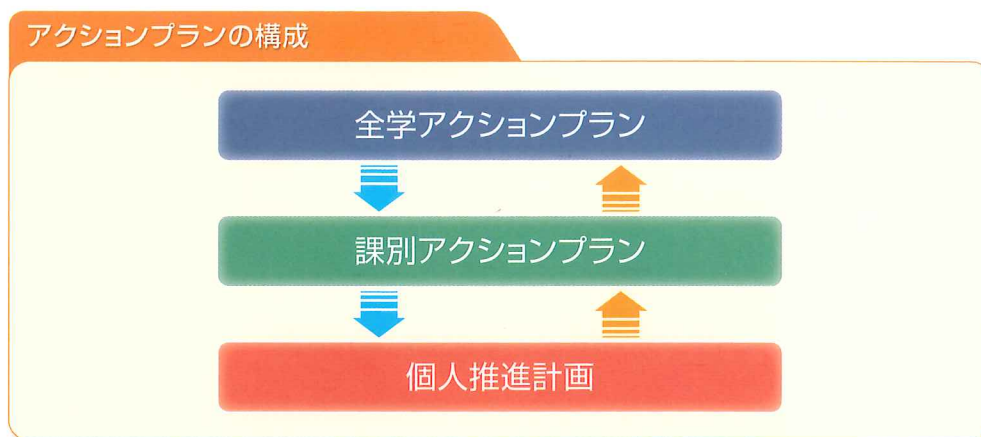
Contents 目次

1.	アクションプランの構成と進捗管理	3
2.	アクションプラン(平成27年度版)の概要	5
3.	アクションプラン(平成27年度版)の進捗とその成果	8
4.	平成28年度に向けて	9

アクションプランの構成と進捗管理

1 アクションプランの構成と平成27年度版策定までのフロー

本学のアクションプランは、長期ビジョン実現に向けた全学的課題と行動計画を一覧化した「全学アクションプラン」と、各事務担当部署の諸課題を向こう5年間の行動計画にまとめた「課別アクションプラン」の2層構造となっています。また、「課別アクションプラン」の課題を、個人が担当する業務にまでブレイクダウンさせ、個人毎の推進計画として設定しています。それぞれの概要は、次のとおりです。



1 全学アクションプラン

本学が2020年度までの長期ビジョンとして策定した、中長期計画「N' 2020 Plan」に掲載されている全課題、また、本学が過去に策定した中期計画である「マスタープラン」の未解決課題、更に、理事やアクションプラン推進管理委員会委員からの有意義な意見を織り込み、整理して取り纏めたものが「全学アクションプラン」です。

「全学アクションプラン」では、全ての課題を「大分類」、「中分類」、「小分類」と分類し、それぞれの課題解決に向けて、「担当理事等」・「担当部課」・「関係会議等」・「最終目標(2020年度の姿)」・「数値目標」・「5力年の年次推進計画(平成27～31各年度)」を設定しています。

2 課別アクションプラン

上記の「全学アクションプラン」に掲げた「担当部課」が、それぞれの所掌する課題について「課別アクションプラン」の原案を作成しました。複数部署にまたがる課題は、担当部署毎に考え方が異なるものについて事務局で調整を行い一部修正し、「関係会議等」・「数値目標」は担当部署と事務局で協議を行い確定しました。また、ここでの調整結果は「全学アクションプラン」に再度反映しました。

3 個人推進計画

事務職員は、「課別アクションプラン」をもとに、各自の「行動目標」を年度毎に設定しています。「行動目標」は、各年度終了時に上司が達成度に応じて評価を行い、その評価結果を期末手当に反映することにしており、事務職員のモチベーション向上に繋げる仕組みを構築しています。

2 アクションプランの進捗管理

アクションプランの進捗管理は、次のような体制で行っています。

1 管理体制の整備

アクションプラン全般の進捗管理を所掌する委員会として「アクションプラン推進管理委員会」を設け、原則月1回開催して進捗状況の報告・確認を行っています。この委員会でご委員から示された意見の内、計画に反映すべきものは適宜「全学アクションプラン」に織り込み、修正を行っています。また、事務職員の管理職を構成員として毎月開催する「部課長会議」では、アクションプランに関する報告や確認、複数部署間の連携について調整を行っています。

更に、平成27年度からは、前年度進捗に遅れが見られた課題を「未進捗重点課題」として、「アクションプラン推進管理委員会」で継続してフォローすることとし、各課題の推進責任者から進捗を報告させる体制としました。委員会では意見交換等を行い、推進に当たっての問題点やその改善点について議論を重ね、課題解決に向けて継続して取り組んでいます。

更に、原則として毎月開催される理事会においては、「全学アクションプラン」全体の進捗状況が報告されています。

2 経営層と部課長とのミーティング

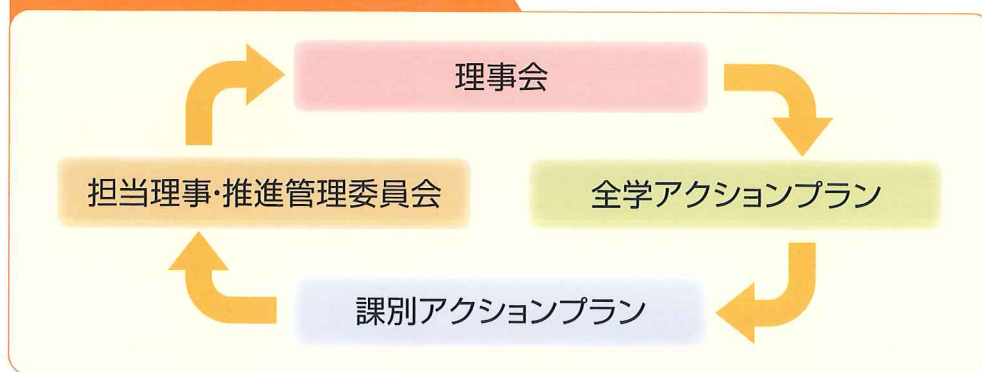
各年度の終了時には、常任理事・事務局長等の経営層と事務組織の部課長とのミーティングを行い、各部署の「課別アクションプラン」進捗状況、今後に向けた取り組み方針等について、意見交換を行っています。このミーティングでは、「アクションプラン」をコミュニケーションツール(情報伝達・意識共有化の手段)の一つとして活用し、各部署が直面している重要な課題について、経営層と担当部署との情報の共有化を図っています。

3 アクションプランのPDCAサイクルについて

本学の「アクションプラン」に係るPDCAサイクルは、まず「課別アクションプラン」に各部署が掲げた具体的課題について、学内のグループウェア上に作られた「アクションプラン管理システム」に各課長が年度終了時に進捗状況を入力します。次に、課題毎に定めた「担当理事」が各課題の進捗状況についてコメントを付し、その結果について「アクションプラン推進管理委員会」で検討を行い、最終的には理事会での審議を経て、次年度版の「全学アクションプラン」の見直しへと繋げております。

このようなPDCAサイクルを確立することによって、年度毎に見直し策定する本学の「全学アクションプラン」に、時代の要請や環境の変化を速やかに取り込むことが可能となっています。

アクションプランのPDCAサイクル



アクションプラン(平成27年度版)の概要

1 全学アクションプラン

「全学アクションプラン」には、本学の様々な課題を網羅的に掲載しています。課題は、大きく「建学の精神と二松學舎憲章」、「大学・高校・中学共通の教育改革」、「二松學舎大学・大学院の教育改革」、「附属高校の教育改革」、「附属柏中学校・高校の教育改革」、「財務、人材育成、評価、組織、広報、その他」の6つに分け、更に重要度などに応じ「大分類課題」・「中分類課題」・「小分類課題」に整理しました。

「平成27年度全学アクションプラン」は、前年度の「平成26年度全学アクションプラン」を踏襲しつつ、各課題の進捗状況や社会情勢を踏まえて、スケジュール内容の見直しと新たな課題の追加を行いました。

全学アクションプランの概要

全学アクションプランの6つの柱	全学アクションプランに掲げた課題の数		
	大分類	中分類	小分類
I. 建学の精神と二松學舎憲章	3	4	5
II. 大学・高校・中学共通の教育改革	1	2	8
III. 二松學舎大学・大学院の教育改革	8	31	121
IV. 附属高校の教育改革	3	10	30
V. 附属柏中学校・高校の教育改革	3	11	35
VI. 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他	7	18	37
合計	25	76	236

全学アクションプランに掲げた、大分類の課題は次のとおりです。

I 建学の精神と二松學舎憲章

No.	大項目	内容
1	建学の精神	建学の精神の学内外浸透／本学のブランドイメージ向上
2	二松學舎憲章	長期ビジョンの実現に向けた教職員の行動規範の制定
3	二松學舎史編纂事業と周年事業	創立150周年に向けた本学150周年史の編纂

II 大学・高校・中学共通の教育改革

No.	大項目	内容
1	各設置学校間の連携強化	設置校間の連携強化／二松學舎全体での改革の推進

III 二松學舎大学・大学院の教育改革

No.	大項目	内容
1	大学のフレーム	現行2学部3学科制の教育組織について将来への対応検討
2	大学のマネジメント	学長のガバナンスを強化し、「教育の質的転換」を推進



No.	大項目	内容
3	大学の教育改革	カリキュラム改革／シラバスの充実／グローバル化対応／ICT設備等の積極的導入
4	大学院の教育改革	教員・研究者・専門的職業人養成に向けた改革の実行
5	研究活動の推進	学術研究に係る補助金の積極的な獲得
6	学生支援	奨学金制度、サポート体制の充実
7	入学者の確保、退学者等の減少	学生相談室、保健室等の機能強化
8	キャンパス整備	九段キャンパス、柏キャンパスの学習環境充実

IV & V 附属高校の教育改革、附属柏中学校・高校の教育改革

No.	大項目	内容
1	教育改革	進学実績向上／グローバル化・ICT化対応
2	生徒支援	奨学金制度や特待生制度の充実
3	キャンパス整備	ICT設備の積極的導入／各種設備リニューアル

VI 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他

No.	大項目	内容
1	長期ビジョンの推進	学内の情報共有化／学外への情報発信推進
2	財務	収入増加策、支出減少策の着実な実行
3	教職員の育成	「教職協働」の理念の下、教員の組織的FD活動、事務職員のSD活動の推進
4	人事・評価制度、能力開発・研修制度	教職員の積極性を引き出す人事・評価制度の構築／個人の能力開発・研修制度の充実
5	組織・権限	理事長のガバナンスの下、改善計画の検討から実行までを迅速化する事務組織、業務手順の見直し
6	広報	戦略的ブランディング計画による本学の社会的認知度向上
7	その他	外部評価機関からの評価を活用した学校改革実施

2 課別アクションプラン

各事務担当部署では、「全学アクションプラン」の課題のうち、所掌する具体的な課題について「課別アクションプラン」を毎年度作成し、計画を管理・推進しています。

平成27年度は、まず各部課長が前年度の「課別アクションプラン」の達成度合いを、学内の進捗管理システム内に入力し、学内に状況報告を行いました。その後、各部課長と経営層とのミーティングを実施し、報告された達成度を基にして、前年度の「課別アクションプラン」の進捗状況や、実行にあたっての問題点について意見交換を行いました。このミーティングを通じ明らかになった点や社会情勢の変化を踏まえ、各部署で前年度の「課別アクションプラン」を見直し、平成31年度までを期間とした「平成27年度課別アクションプラン」と「実行計画スケジュール表」を作成し、推進して参りました。

各事務担当部署が掲げた課題の概要は、次のとおりです。

課別アクションプランの概要

部署名	主な課題
総務・人事課	創立140周年記念事業の具体的な計画策定／教職員人材の育成／評価制度の見直し／他大学との連携強化
広報課	「N' 2020 Plan」の進捗状況の学内外への情報発信／戦略的・効果的な広報活動の展開
柏事務課	生涯学習講座の充実と市民の受け入れ／経費節減
企画・財務課	両学部の学生募集力強化策の検討／九段・柏両キャンパスの整備／戦略的な補助金の獲得／奨学金制度の拡充
経理課	部門別予算編成の実施／経費節減
大学改革推進課	両学部の改組の検討／組織的FD(教員の能力開発)活動の推進／IR(教育活動、教育効果等の調査分析)機能の充実
入試課	入試制度改革の検討・導入／中高大一貫化の体制整備／戦略的な学生募集対策広報の実施
教務課	大学院のカリキュラム改革／両学部の改組検討／全学的な外国語教育の見直し／学生ポータルサイト・ポートフォリオの活用
学生支援課	奨学金制度の拡充／課外活動支援／学生ポータルサイト・ポートフォリオの活用／父母会との連携強化
国際交流センター事務室	留学生支援体制の整備／双方向交流のための環境整備
図書課	千代田区、柏市との連携強化／他大学図書館との交流活発化／所蔵資料の整備
教職支援センター事務室	教員採用試験合格者の増加対策
就職支援課	就職率向上に向けた取り組み／公務員採用試験合格者の増加対策
情報センター管理室	ICTの活用と学内ネットワークの見直し
附属高校事務室	難関大学への進学実績向上／外国語教育の強化／生徒募集力の強化
附属柏中高事務室	難関大学への進学実績向上／外国語教育の強化／臨時定員増による規模拡大／生徒募集力の強化
二松学舎サービス(株)	業容拡充と収益向上

アクションプラン(平成27年度版)の進捗とその成果

1 定性的な成果

主な定性的成果(平成27年度)

- 進捗が遅れている課題に対してのフォローアップ体制が確立された。

2 具体的な成果

主な具体的成果(平成27年度)

全学アクションプラン大分類	取組事項
I 建学の精神と二松學舎憲章	<ul style="list-style-type: none"> ●創立140周年記念事業準備委員会を設置し、創立140周年記念事業の事業理念、キャッチコピー、ロゴマークを決定した。
III 二松學舎大学・大学院の教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ●平成29年度に文学部へ都市文化デザイン学科を設置する方針を固めた。 ●国際政治経済学部の学部改組についての学内方針を決定し、検討に着手した。 ●学生満足度調査を実施し、回答結果の分析に着手した。 ●国際交流を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> ～中国の周口師範学院と交流協定を締結した。 ～文学研究科で中国の浙江工商大学大学院校舎へ次年度から相互に講座を配置することとした。 ～九段1号館内に留学生と日本人が外国語で交流する「国際交流スペース」を設置した。 ●「外国語教育検討協議会」にて外国語教育の改善策を取りまとめ、次年度以降、順次改善していくこととした。 ●学生向けにスマートフォンでも利用できる英語自習用ソフトを導入し、場所を選ばず語学学習ができる環境を整えた。 ●創立者ゆかりの地である倉敷市と地域連携に係る協定を締結した。 ●教員採用試験合格者数増を目指して受験指導体制・指導方法を見直し、前年度同様、現役合格者が増加した。 ●公務員試験対策講座を強化し、行政職の合格者が前年度までに比べて大幅に増加した。 ●「平成27年度私立大学戦略的基盤形成支援事業」に本学の研究プロジェクト「近代日本の『知』の形成と漢学」が採択された。 ●奨学金付入試制度の導入や、本学独自の奨学金制度を拡充した。 ●中期的学生募集広報戦略を策定し、それに基づいた学生募集を実施、大学全体の入学志願者が増加した。 ●本学卒業生を対象にした「卒業生名刺交換会(異業種交流会)」を初めて実施し、卒業生OB・OGの実業界ネットワークを強化した。 ●前年度から実施した九段キャンパスの改修工事が完了し、教育環境が整備された。 <ul style="list-style-type: none"> ～九段2号館のラーニング・commonsがオープンし、アクティブ・ラーニングを実施するための学習環境を整えた。 ～学生対応部門がワンフロアに集約され、学生対応のワンストップサービスがスタートした。 ～国際政治経済学部専任教員の個人研究室が九段1号館に設置された。 ～保健室、学生相談室が拡充された。
IV 附属高校の教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ●英語検定準2級・2級の合格者が増加した。 ●ネイティブ・スピーカーのALT(外国語指導助手)を1名配置し、生徒がネイティブの英語に触れる機会を増やした。 ●平成28年度から、希望者を対象にした英語圏への語学研修を実施することを決定した。 ●クラス編成方法を見直し、中堅私大への合格者が増加した。
V 附属柏中学・高等学校の教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ●高校において臨時定員増を行い、安定的に入学者を確保した。 ●広報活動についてのアドバイザー業者を活用し、業者と連携した戦略的な広報活動を推進した。 ●平成27年度新入生から全員にタブレットPCを配付し、次世代型スキルの育成に対応できる教育環境を整えた。 ●英語表記の掲示作成、英語版ホームページ作成、オンライン英会話の導入等により、外国語習得にふさわしい環境づくりを進めた。 ●英語圏への語学研修の実施対象学年を拡大した。 ●台湾の新興高等学校と交流協定を締結した。 ●スタディサポートシステムを活用し、中堅私大、難関大学への合格者が増加した。
VI 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他	<ul style="list-style-type: none"> ●大学院の学納金の妥当性を検討し、平成28年度入学者から改定することとなった。 ●文部科学省の補助金「私立大学等改革総合支援事業」の「タイプ1:教育の質転換型」に平成25年度から3年連続で採択された。 ●中長期的な大学の学生募集広報戦略についての検討会議を設置し、学内の入試広報体制を強化した。 ●Web媒体による広報活動を積極的に実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ～公式ホームページに「受験生特設サイト」を開設した。 ～公式ホームページに「創立140周年記念特設サイト」を開設した。 ●本学に在籍した夏目漱石にフォーカスを当てた広報を積極的に展開し、新聞記事等に取り上げられる機会が増加した。 ●柏キャンパスの活用計画を策定した。 ●千葉商科大学、フェリス女学院大学、和洋女子大学と事務職員のSD(職員の能力開発)連携に係る協定を締結した。 ●教職員を対象に既存業務の効率化についての提案を広く募り、優秀な提案を行った教職員を表彰する人事制度「BSR大賞」を創設した。 <p>※BSR=「Business Scrap & Restructuring」(業務効率化)の略称。</p>

1 平成28年度の重点課題

本学は、長期ビジョン「N' 2020 Plan」を策定したのち、アクションプランを作成し、約3年間活動を行って参りました。「N' 2020 Plan」では、本学の将来像や教職員の行動規範である「二松學舎憲章」を示し、「全学アクションプラン」、「課別アクションプラン」では将来像を実現するための具体的な行動計画を示しました。今後アクションプランをより一層推進していくに当たり、取り急ぎ平成28年度重点的に進めていく課題は以下のとおりであり、その進め方も含めて説明いたします。

1 大学の学部・学科改編

日本の18歳人口は今後一層減少していくことが予想されており、大学の学生募集はより厳しいものになっていくと言われております。本学は幸い文学部、国際政治経済学部ともに現在のところ定員割れには至っておりませんが、学生や社会のニーズは日々変化しており、現在の学部・学科体制のままでも安泰ということではありません。今後更に18歳人口が減少していくことを踏まえて、学生募集力に余裕のある今のうちから学部・学科の改編を進め、本学の伝統や建学の精神を継承しつつ、学生・社会のニーズに応える形で教育内容をより充実させ、学生募集力の強化を目指して参ります。

文学部は平成27年度に、平成29年度から新学科「都市文化デザイン学科」を開設する方針をまとめましたが、平成28年度は、中・長期的な文学部の更なる改組の可能性についても検討を進めて参ります。

一方、国際政治経済学部は「受験生が卒業後の就職先を容易にイメージできる学部・学科」、「資格取得に強く、語学(特に英語)の実力アップに繋がる実学的・実践的なカリキュラム」への改組を目指し、平成27年度から検討が進められております。平成28年度は、国際政治経済学部改組後の新体制が平成30年度からスタートできるよう、具体的な方針を取りまとめて参ります。

2 学生・生徒募集対策

平成27年度、本学は「学生募集広報戦略検討会議」を設置し、この会議で大学の「中期的学生募集広報戦略」を策定しました。この方針に基づいた学生募集広報を実施した結果、大学全体では志願者数が増加しました。今後も志願者数の増加を継続させていくため、平成28年度についても「学生募集広報戦略検討会議」を継続し、前年度の学生募集広報活動の効果検証を行い修正・改善を加えながら、上記戦略に基づいた広報活動を継続して参ります。

また、附属高等学校、附属柏中学・高等学校についても、教育内容・指導内容をより充実させ、進学実績の向上を図ることで受験者層にアピールし、定員の確保に努めて参ります。

2 その他平成28年度検討課題

平成28年度については上記事項も含め、右記の表のとおり検討・着手していく予定です。

平成28年度取組事項

全学アクションプラン大分類	取組事項
I 建学の精神と 二松學舎憲章	<ul style="list-style-type: none"> ●創立140周年記念事業の一部先行実施
II 大学・高校・中学共通の 教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ●高大接続教育の具体策の策定 ～両附属高校からの入学者を対象とした大学教育との接続策の策定
III 二松學舎大学・大学院 の教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ●文学部都市文化デザイン学科開設に向けた諸準備の実施 ～文部科学省への届出書類の提出 ～新学科に係る諸規程の整備 ●国際政治経済学部改組案の策定 ●大学院への内部進学者増加策の検討 ●3つのポリシー（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）の見直しと、それに沿った入試の実施 ●教員のFD計画の具体化と実施 ●教学IR活動の活性化 ●外国語教育の改善 ●学生ポートフォリオの利用者拡大、及び、各種効果測定と検証の実施 ●国内インターンシップの単位認定制度の検討 ●海外大学とのダブルディグリー入試制度の検討 ●柏市との連携による新たな公開講座の導入 ●「私立大学戦略的基盤形成支援事業」の継続推進 ●「私立大学研究ブランディング事業」への申請 ●秋葉原での研究拠点の構築、及び研究活動の推進 ●センター試験廃止後の入試制度について検討開始
IV 附属高校の教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ●難関大学への進学実績向上 ●生徒募集力の強化
V 附属柏中学・高等学校 の教育改革	<ul style="list-style-type: none"> ●海外語学研修（英語）の実施（附属高校） ●高校グローバルコースの開設準備開始（附属柏高校）
VI 財務、人材育成、評価、 組織、広報、その他	<ul style="list-style-type: none"> ●ガバナンス強化に係る各種規程の整備 ●新たな研修体制に基づく教職員研修の実施 ●中長期的な学生募集広報の継続実施 ●文学部都市文化デザイン学科の学生募集広報の検討と実施 ●防災危機管理体制の強化

最後になりましたが、長期ビジョン「N' 2020 Plan」を実現するため、「アクションプラン」を通じた本学の改革に向けた活動を今後も継続して参りますので、関係者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



学校法人二松學舎

学校法人二松學舎

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16 TEL 03-3261-7407